

# 小山田遺跡第7次調査 発掘調査成果報告

奈良県立橿原考古学研究所

平成 年 月 日

---

調査地	高市郡明日香村大字川原 197-2
調査原因	小山田遺跡範囲確認調査事業
調査期間	平成 27 年 12 月 24 日～平成 28 年 01 月 28 日
調査担当	調査部調査課 主任研究員 鈴木 一議・主任技師 宇野 隆志・同 岡見 知紀
調査面積	調査面積 83.7 m <sup>2</sup>
主な遺構	大規模な古墳を造営するための造成土
主な遺物	土師器片、須恵器片、室生安山岩、結晶片岩、石英閃緑岩
要 旨	大規模な古墳を造営するための造成の状況を確認した。この造成は、小山田遺跡の成立に関わるものである。

---

## I. はじめに

今回の調査は、高市郡明日香村大字川原 197-2 における小山田遺跡範囲確認調査に伴うものである。昨年度実施した小山田遺跡第 5・6 次調査において、古墳に伴うと考えられる大規模な掘り割りと墳丘部の板石積みを検出した。これを受けて、掘り割りの西側延長部の様相と墳丘部とみられる板石積みの北西角の確認を目的に、昨年度調査部分の西側、県立明日香養護学校のグラウンド部分に調査区を設け、発掘調査を実施した。

調査期間は平成 27 年 12 月 24 日から平成 28 年 1 月 28 日までで、調査面積は約 83.7 m<sup>2</sup>である。

## II. 発掘調査の成果

発掘調査の結果、小山田遺跡の成立にかかわる大規模な造成を確認した。今回の調査区は、小山田遺跡の西側に埋没する谷の東斜面部に位置し、第 5・6 次調査で検出した掘り割りと板石積みの延長が、今回の調査区までおよばないことも明らかとなった。

**造成の状況** 現地表面から約-3.5m、掘り割り底面の敷石上面（標高約 115.0m）から約-2.1m、標高 112.9 m 付近で、地山（花崗岩の風化岩盤層）の小塊を含む黄褐色粘土主体の造成土を確認した。造成土の厚みは、3.0 m 以上を測り、さらに厚く造成されており、地山は確認できなかった。造成土の範囲は、調査区の制約により不確定であるが、小山田遺跡西側の谷部一帯の広範囲におよぶものと推測される。造成土の上面は、東から西側の谷部に向かって傾斜する。造成土上面の東側では、傾斜が緩い部分がある。この部分は、造成の過程で構築された平坦面（緩傾斜面）と考えられる。その規模は、南北 3.5m 以上、東西 0.9m 以上で、傾斜角は約 13 度を測る。なお、この平坦面（緩傾斜面）の上面で、石材が集中する部分を検出した。石材には、石英閃緑岩と室生安山岩（榛原石）があり、石英閃緑岩が主体である。石英閃緑岩の大きさは、10~30cm 大である。石材の検出状況から、至近より崩落したものと考えられる。平坦面（緩傾斜面）より西側の造成土上面の傾斜角は、約 26 度を測る。造成土中から出土した遺物には、土師器片と須恵器片がある。しかし、いずれも細片のため、造成の明確な時期認定は困難である。

## III. まとめ

今回の調査で確認した造成土は、小山田遺跡西側に存在する谷部一帯を、古墳を造営するために周辺を大規模に造成した際のものと考えられる。昨年度の第 5・6 次調査で検出した掘り割りも、谷にかかる西側では地山（花崗岩の風化岩盤層）を削り、盛土で造成した上に石材を敷くなどして構築したことが明らかとなっている。今回の調査で確認した造成土は、その特徴から掘り割り西側から谷部分に対する一連の造成に伴う可能性が高い。平坦面（緩傾斜面）上で検出した石材は、平坦面より上方にあると想定される斜面に、石が貼られていたことを示唆するものと捉えられる。なお、昨年度検出した掘り割りと板石積みの西側延長部が今回の調査区までおよばないことは、掘り割りの規模と板石積みの北西角の位置を確定する上で重要な成果である。

飛鳥時代の古墳には、基底部分を造成するために周辺地形を大規模に整備している事例が多く、今回の調査で確認した造成土も基底部分の地業の一端を示すものと評価される。よって、この大規模な造成は、小山田遺跡に伴うもので、小山田遺跡の性格が古墳であるとする考えを補強するものといえる。以上の調査成果から、板石積みによる墳丘規模は一辺 50m 以上であり、外側に大規模な基底部分が整備されていたとみられる。

このように、今回の調査で得られた成果は、小山田遺跡の全体像を復元する上で重要な内容を含むものである。しかし、残された課題も多く、今後もさらに継続して調査をおこない、小山田遺跡の詳細を明らかにしていく必要がある。

表 小山田遺跡における調査一覧

次数	調査原因	調査期間	調査面積	主な遺構	主な遺物
第1次	—	S47.12.07	—	—	木簡
武 棚	学校拡張	S49.07.07~07.09	54㎡	—	—
第2次	授産所建設	H01.05.08~06.30	500㎡	—	—
第3次	プール建設	H07.07.25~08.12	200㎡	溝	室生安山岩
第4次	ポンプ室設置	H08.03.27~03.29	15㎡	—	室生安山岩
第5次	教室校改築	H26.11.19~H27.03.02	740㎡	掘り割り	土師器・須恵器・鉄製品・室生安山岩・結晶片岩
第6次	国庫補助(学術)	H26.12.08~H27.03.02	20㎡	掘り割り	土師器・須恵器・室生安山岩・結晶片岩
第7次	国庫補助(学術)	H27.12.24~H28.01.28	83.7㎡	造成土	土師器・須恵器・室生安山岩・結晶片岩

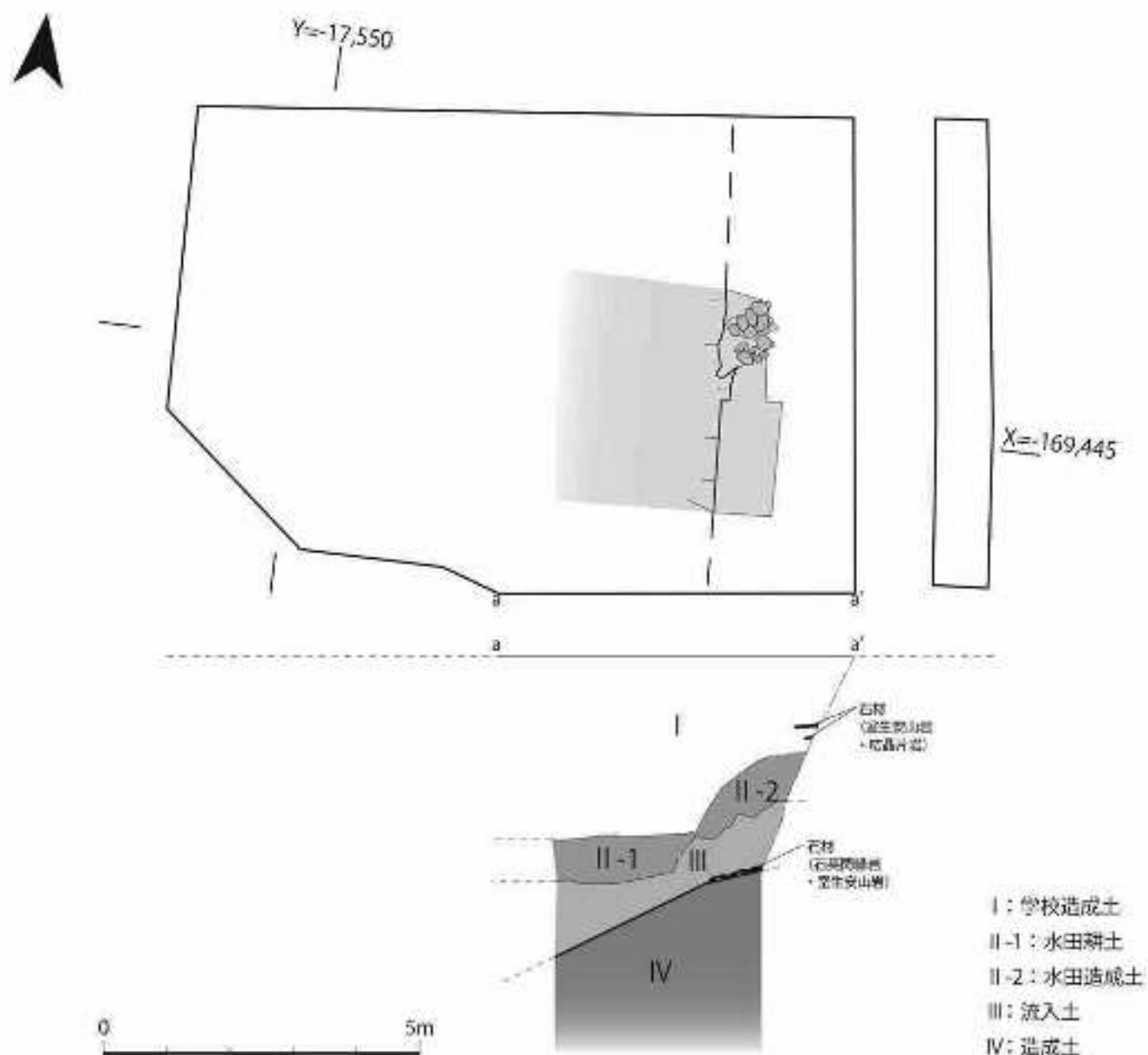


図1 調査区平面・断面模式図(S=1/100)



五条野間イ遺跡

宮浦池古墳

五條野宮ヶ原  
古墳2号墳

五條野宮ヶ原  
古墳1号墳

小山田遺跡

川原下ノ茶屋遺跡

西橋遺跡

図2 小山田遺跡と周辺の遺跡 (S=1/2,000)

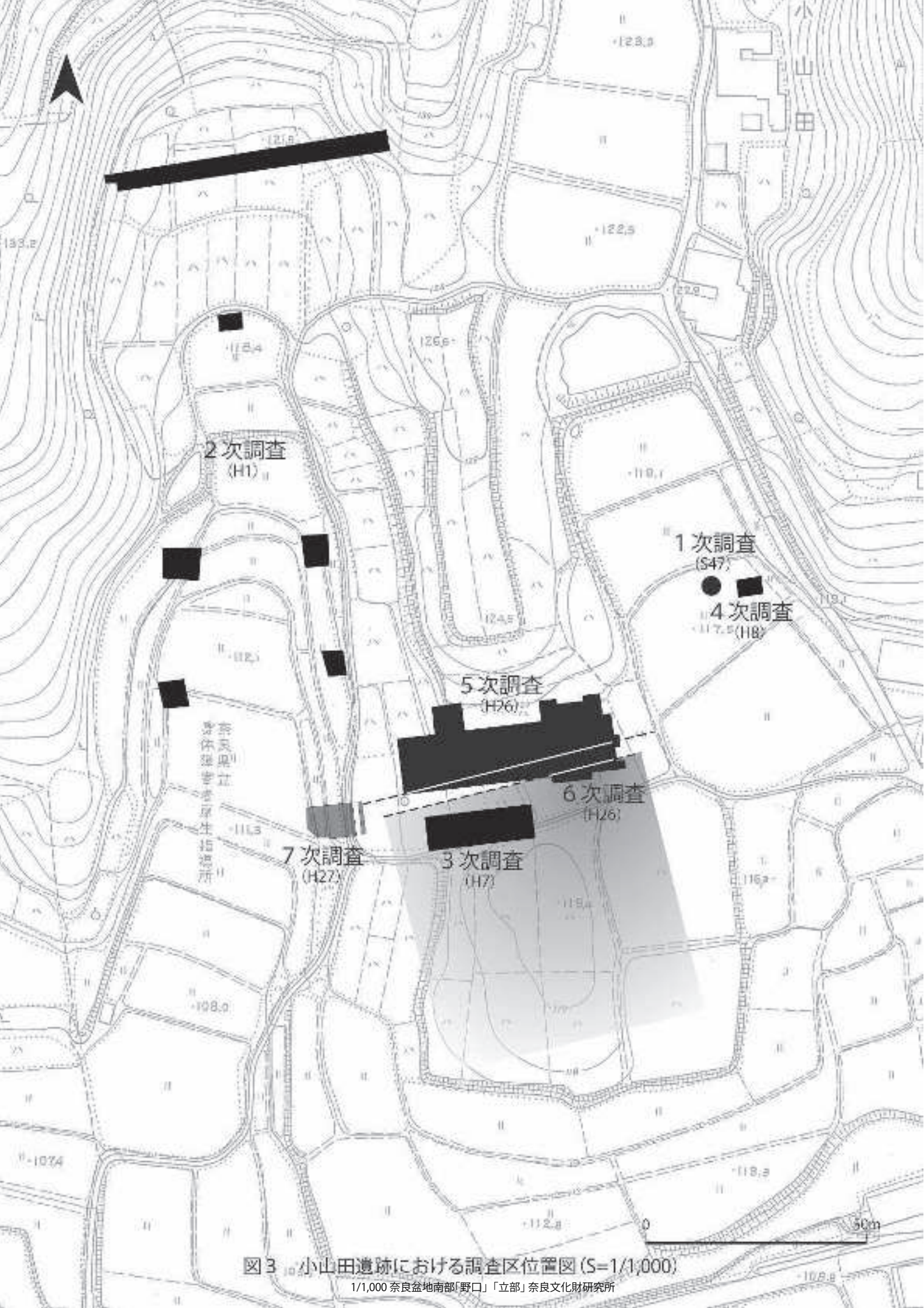


図3 小山田遺跡における調査区位置図 (S=1/1,000)



写真1 調査区遠景（南西から）



写真2 調査区全景（西から）



写真3 調査区東壁土層断面（西から）



写真4 平坦面（緩傾斜面）と石材（石英閃緑岩・室生安山岩）検出状況（西から）